

日本の若者は何を愛するのか

ライター：森本達也 神崎扇樹

エディター：佐藤山葉

ある学生と恋愛の話をしていると彼は「自分の時間を割いてまで恋愛したくない」と言った。このような意見をもつ若者がふえている。実際 2015 年 6 月に内閣府が行った調査でも 20~30 代の若者の 55% は恋愛を面倒なものだと答えている。そしてその理由は自分の趣味や、仕事、遊びに時間をさきたいという理由であった。ではどうしてそうなってきってしまったのか。現代の若者の恋愛の現状を知る恋愛科学研究所の荒牧佳代さんは、若者のそのような動向について 3 点に分けて語る。

荒牧さんはまず「社会欲が恋愛欲に勝るようになってきている」と語った。社会欲とは「文化的活動を営む人間に元来備わっているもので、社会貢献をしたい、他者に認知してもらいたいといった個の欲求」であり、すべての文化的活動が社会欲へとつながる可能性がある。現代は、社会欲を満たせるツールが数多く存在する。満たせるツールとして、SNS 等個の media の存在を用いて世界中に自らを発信できる。

「恋愛欲をコントロールできるようになった。」荒牧さんはそう言った。これは若者の大学への進学率の高まりに起因する。恋愛欲の根幹である性欲は思春期にピークに達する。現代の若者は、その性欲を抑えながら、受験勉強に励んでいるのである。つまり恋愛欲を抑える術に長けている。またアプローチをする、される機会が減少しているということだ。

荒牧さんは、「恋愛を億劫なものと思えるようになった」とも言った。それは、元来恋愛は面倒くさい性質（この傾向はいま顕著なものとなっている）を備えたものであり、成功するかは相手次第で、ライバルもいて、裏切りや嘘が飛び交う。恋愛をここまでにしたのは何か。それは機械をはさんだコミュニケーションが増えたことだ。SNS、LINE などでは相手の表情、顔色、声の高さ、浮き沈み、気分等が分からないし、伝えられない。これに慣れている若者は、直に顔を合わせた生身の会話は「面倒くさい行為」とであると、恋愛を敬遠するようになった。

では現代の若者はどのように恋愛と向き合えばいいのか。恋愛の価値とは何か。恋愛とは「究極のコミュニケーション」である。最後に、「恋愛以外にやりたいことがある、面倒くさいと感じるのは当たり前のものでそれは人間の成長の過程の1つ。でも笑って泣いてと人間くさい恋愛というものを頭の隅に選択肢として残して置いてほしい。自分も母親と父親の恋愛を通じて生まれた存在なのだから。」と荒牧さんは強く語った。

キャプション①2015年6月に内閣府が行った調査でも20~30代の若者の55%は恋愛を面倒なものだと答えている。

②SNSに慣れてきている若者は、直に顔を合わせた生身の会話は「面倒くさい行為」として敬遠するようになった。